令和７年度「すぎのこ」第５号　　R７年８月２９日発行

すぎのこ

将来につながる教育保育をめざして！

先日の美化作業ではたくさんの皆様のご参加ありがとうございました。おかげさまで、二学期からの運動会をはじめとした行事や活動がスムーズにいくだけでなく環境面でも日頃手の届かないところを頂き大変助かりました。ご協力、誠にありがとうございました。

さて、今年の夏は、線状降水帯による大雨・豪雨が熊本県を襲いました。皆様のご家族ご親戚のおうちは被害は大丈夫でしたか。

私の家は土地が低いところにあります。八月一〇日の夜、雨が強くなった一一時ころ家の前を見たら水たまりはあるものの大きな変化はなかったので就寝しました。夜中二時前、雷鳴とたたきつけるような雨音で目が覚めて玄関前を見たところ、川のようになっていました。床下まで水が来て二台の車も水につかったものの幸い大きな被害はありませんでした。水が増えたとき思ったのが、水たまりの時点で車を高台に動かすなどの対策をすればよかったということです。（結果として大きな被害はなかったものの）もっとテレビやネットの情報を得て、その時点で判断し、思い切って動くべきだったと反省しました。

水が引いて考えたのが、今後の子どもたちのことです。これから大人になる園児や子どもたちの将来はどうなっていくのでしょう。今回のような災害が今後増えてくるだけでない地球温暖化に関する様々な問題。少子化による負担増、人手不足の問題など（テレビでよく聞く）「これまでに経験したことのない」課題が次々に出てくることでしょう。子どもたちは、これから先、これら経験したことのない問題に知恵を出し合って立ち向かっていかなければなりません。立ち向かう力をつけてあげないといけません。

今、保育や教育に当たる者として未知の問題に立ち向かって自分の力で克服する力（の基盤）をつけてあげることを念頭に入れて日々の教育保育に当たることが大切だと思います。

今から六年ほど前、現在の学習指導要領が施行される前に全国の保護者の方に、新しい学習指導要領を作った思いをお知らせするリーフレット「生きる力―学びの、その先へ―」が配布されました。そのリーフレットには次のように書いてあります。

> 学校で学んだことが、子供たちの「生きる力」となって、明日に、そしてその先の人生につながってほしい。これからの社会が、どんなに変化して予測困難になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。そして、明るい未来を、共に創っていきたい。二〇二〇年度から始まる新しい学習指導要領にはこのような思いが込められています。

少し話が大きくなりすぎました。現在行われている学校教育がどれだけこの理念に近づいているのか検証が必要でしょうが、この理念をもって子どもの教育に当たることはとても大切なことだと思います。園として園児の将来を見据えて園児の主体性を伸ばせるようにしていこうと改めて職員と話をしたところです。主体性を伸ばすためには園児への声掛けがとても大切になってきます。以下は心がけていきたい例です。

「～しなさい。」「こうします。」↓「あなたはどう思うの？」「どうしたい？」「どうしたらいいと思う？」

「そうしたらこうなるよ。」↓「そうしたらこうなるかもしれないよ。そうならないためにどうすればいいだろうね？」↓「よくそこまで考えられたね。」

「これから気をつけなさい。」↓「これからどうすればいいと思う？」

「これをします。」↓「どれをしたい？どうして？」

「こうしたからこうなったのよ。」↓「やってみてどうだった？」

このような声掛けが常にできるわけではありませんし、黒字で表した部分の声掛けが必要な場合もありますが、子どもの思いを大切にしようという意識を持ったうえで関わることで、子どもの主体性は高まってくるのではないかと考えます。それが自ら考え判断する力につながっていくにちがいありません。そのような教育保育観を大切にして二学期も頑張っていこうと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

おうちでも一緒に考えていただければ幸いです。